

特集の意図

血管炎の治療指針は膠原病内科または腎臓内科の観点からの提案に限られ、血管炎性末梢神経障害に特化したエビデンスは極めて少ないのが現状である。血管炎性末梢神経障害を治療するにあたり、血管炎一般の治療法をそのまま援用してよいのか、診断に必要な方法は何か、現段階で血管炎性末梢神経障害に特化したエビデンスにはどのようなものがあるのかなど、それぞれの著者の私見も交えてレビューする。なお、本特集は2015年3月号特集「中枢神経の血管炎」と対をなす。合わせてお読みいただきたい。

特集の構成

1. 血管炎性末梢神経障害の症候学と診断（尾方克久） 血管炎性末梢神経障害は症候が多彩なうえ、感覚障害が時間差を持って体のあちこちに生じるため、その診断は困難を極める。予後の改善が期待できる早期治療を可能にすべく、本症を疑うべき所見、鑑別診断のポイントを解説する。

2. 血管炎性末梢神経障害の電気生理（黒川勝己，他） 血管炎性末梢神経障害の診断に有用な電気生理検査，特に神経伝導検査について症例を提示しつつ解説する。神経伝導検査により，無症候性ニューロパチーを発見することができ，確定診断に必要な生検をどの神経で行うかの見極めが可能となる。血管炎性末梢神経障害に特徴的な神経伝導検査所見も紹介する。

3. 血管炎性末梢神経障害の病理（岡 伸幸） 治療方針を立てるうえで診断を確定することが必要であり，診断の確定には神経生検が必須である。末梢神経障害を生じる頻度の高いANCA関連血管炎，クリオグロブリン血症に伴う血管炎，リウマトイド血管炎などの組織像を豊富な写真とともに解説する。

4. Non-systemic Vasculitic Neuropathy（小池春樹） 比較的最近に報告された本疾患は，高頻度でニューロパチーを認めるANCA関連血管炎が全身性なのに対し，末梢神経に局限した血管炎であると言われる。病態についての検討も十分ではなく，疑問も残る本疾患について，来歴や特徴とともに全身性血管炎との関連性，血管炎の中での位置づけについて紹介する。

5. 血管炎性末梢神経障害の evidence-based treatment（古賀道明） エビデンスの限られた血管炎性ニューロパチーの治療をどのように進めていくか。本項ではエビデンスレベルの高い全身性血管炎のガイドラインにこれまでの症例報告などを加味して，血管炎性ニューロパチーの治療アルゴリズムを提案する。